

研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-52
研究課題名	鎖骨下又は上腕留置中心静脈ポートにおける合併症発現頻度の後方視的解析
研究期間	西暦 2013年 5月（倫理委員会承認後）～2013年 11月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録情報）
上記材料の採取期間	西暦 2006年 1月～ 2010年 12月
意義、目的	近年、抗悪性腫瘍薬の投与経路として中心静脈ポート(以下 CVP)の需要が高まってきた。旧来より鎖骨下 CVP の造設が主に行われてきているが、同手技では血気胸やピンチオフといった合併症が低頻度ながら起こり得る事が知られている。一方で上腕 CVP では解剖学的理由により上記合併症を回避できる事が知られている。当科では上記知見に基づき近年では上腕 CVP を第一選択とし、実際に安全に7年間で約400症例の施行を経てきた。本研究では鎖骨下群と上腕群の全合併症発現頻度の差を後方視的に解析し、各群の安全性差異の検討を目的とする。鎖骨下群と上腕群とで各数百症例を比較する報告は国際的にも極めて少ない為、論文発表とする事で上腕 CVP の安全性を検証する有用なエビデンスの一端となる事が期待される。
方法	2006年1月1日から2010年12月31日までに東北大学病院腫瘍内科において中心静脈ポート造設術を施行した症例を対象とする。対象例の診療録を後方視的に解析し、鎖骨下に造設した場合と上腕に造設した場合の、それぞれにおける全ての術中術後合併症を調査・分類し、2群におけるその頻度を比較検討する。学会発表や論文発表に際しては対象例の個人情報（氏名、診療録番号等）が公表される事はない。診療録を基にした後方視的観察研究である為、研究対象者に危険や不利益が生じる事はない。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院 腫瘍内科 塩野 雅俊 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1 電話:022-717-8543 FAX:022-717-8548